

第1章

「総合的な学習の時間」の指導を充実させるための視点

[活用の仕方]

「せっかく苦勞して指導したにもかかわらず、指導した充実感がない」、「子どもたちも指示されないと動けず、盛り上がりには欠けていた」・・・。
このように感じたことはありませんか？

この章では、「総合的な学習の時間」の学びが活性化し、児童と教師がより充実感を得られるよう、指導の改善に役立つ方策についてまとめました。
「指導に当たって大切なことを確認したい」、「充実した学習活動にするためのヒントを得たい」というときの手がかりにしてください。

基本的な考え方

適切な指導を行うために確認しておきたい
考え方や大切なことを説明しています。

実践事例

参考となる事例を紹介し、工夫されている点
を解説しました。

視点1：各教科等との関連を図る

基本的な考え方

1 「知の総合化」を一層推進する

確かな学力を育成するためには、「知の総合化」を図るという視点で自校の総合的な学習の時間と各教科等との関連を見直し、指導計画や授業の改善に生かしていくことが重要です。

学習指導要領の一部改正では、総合的な学習の時間のねらいとして、「各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること」が明記されました。また、「各学校において全体計画を作成すること」や「学校で定めた目標及び内容に基づき、児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと」などが求められています。

学習指導要領の一部改正(平成15年12月)で、総合的な学習の時間に関して追加されたこと

各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにする。

各学校において総合的な学習の時間の趣旨及びねらいを踏まえ、目標及び内容を定める必要がある。

各学校において総合的な学習の時間の全体計画を作成する必要がある。

総合的な学習の時間の目標及び内容に基づき、児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行う必要がある。

(「小学校学習指導要領」第1章より抜粋)

総合的な学習の時間と教科等との関連についての取組に関する教員の意識(小学校担任)

* ()内の数値は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」の合計

- ・教科の枠を越えた横断的・総合的な課題(国際理解、情報、環境、福祉・健康、社会のしくみや職業など)について学習できる。(79.7%)
 - ・自分で調べたり、考えたりするなど、積極的に学習する意欲や表現する力が身に付く。(70.8%)
 - ・教科で学んだ知識や技能を実際の場面で活用できるようになる。(50.4%)
 - ・単なる体験になっており、教科等との関連が不十分で、学力が身に付かない(55.2%)
 - ・教科の時間が減っており、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになる(65.6%)
- (「義務教育に関する意識調査」報告書(平成17年11月)より)

2 総合的な学習の時間と教科等との双方向の関連を意識する

総合的な学習の時間と各教科等との関連については、次の二つの方向があることを意識して授業を構想し、指導に当たることが大切です。

まず、「各教科等で学んだことを総合的な学習の時間に生かす」という方向では、教科の学習内容と関連させたり、発展させたりする扱いが考えられます。次に、「総合的な学習の時間で学んだことを教科の学習に生かす」という方向では、体験や探究の過程で得たものや、問題把握、表現、多面的な考察などの力を教科の授業で生かすことが考えられます。学習の過程で児童が獲得した力を一層発揮できるようになるよう、総合的な学習の時間と教科等と双方向の関連を意識し、意図的・計画的に指導していくことが重要です。

3 「育てようとする資質・能力」という視点から関連を吟味する

各教科等との関連を図ることは、次のようなメリットがあります。

- ・総合的な学習の時間における指導と各教科等で行う指導の重複を避けると同時に、関連付けによる相乗効果を生むことが可能であり、結果的に時間的余裕を生むことが期待できる。
- ・具体的な検討を通して教師が関連を実感し、指導に生かすことができる。
- ・総合的な学習の時間で行う学習が適切であったかどうかを評価できる。

これまでも、各学校においては、各教科等との関連を図る努力がなされてきています。すでに、本県の多くの学校では、総合的な学習の時間の全体計画は作成され、関連を洗い出して表記する作業も進んできています。しかし、あれもこれもと欲張りすぎていたり、学習内容との関連を意識しすぎたりして、資質・能力の関連を見失いがちであるということが見受けられたことも確かです。総合的な学習の時間では、教科横断的な内容を扱うことが多いため、形式的に関連付けようとすると、必要以上に関連項目が出てきてしまいメリットにつながりません。

関連を図ることの目的は、児童の資質や能力を効果的に伸ばすことですから、関連させることの意味を問い直し、関連を図る必要のあるものに重点化する必要があります。大切なのは、関連を図ることが効果的であるかどうかを判断することです。

そこで、次の例を参考に、必要な関連が明確になっているかどうかを確認してみてください。

各教科等との関連について確認する視点（例）

関連の深い教科や領域の明確化

(【事例1】)

無理に関連付けてかえって焦点が絞れなかったり、関連付けるだけで実質的な意味がなかったりすることのないよう、関連の深いものに限る。

「育てようとする資質・能力」の関連の洗い出し

(【事例2】)

「育てようとする資質・能力」という視点で見たときに関連のある学習内容や指導事項を明確にする。

重点化の判断

各教科等と総合的な学習の時間でねらいが重複する内容について、相乗効果をねらって両方で実施するのか、より効果的な方に重点化するのかを判断する。

指導計画の作成・修正

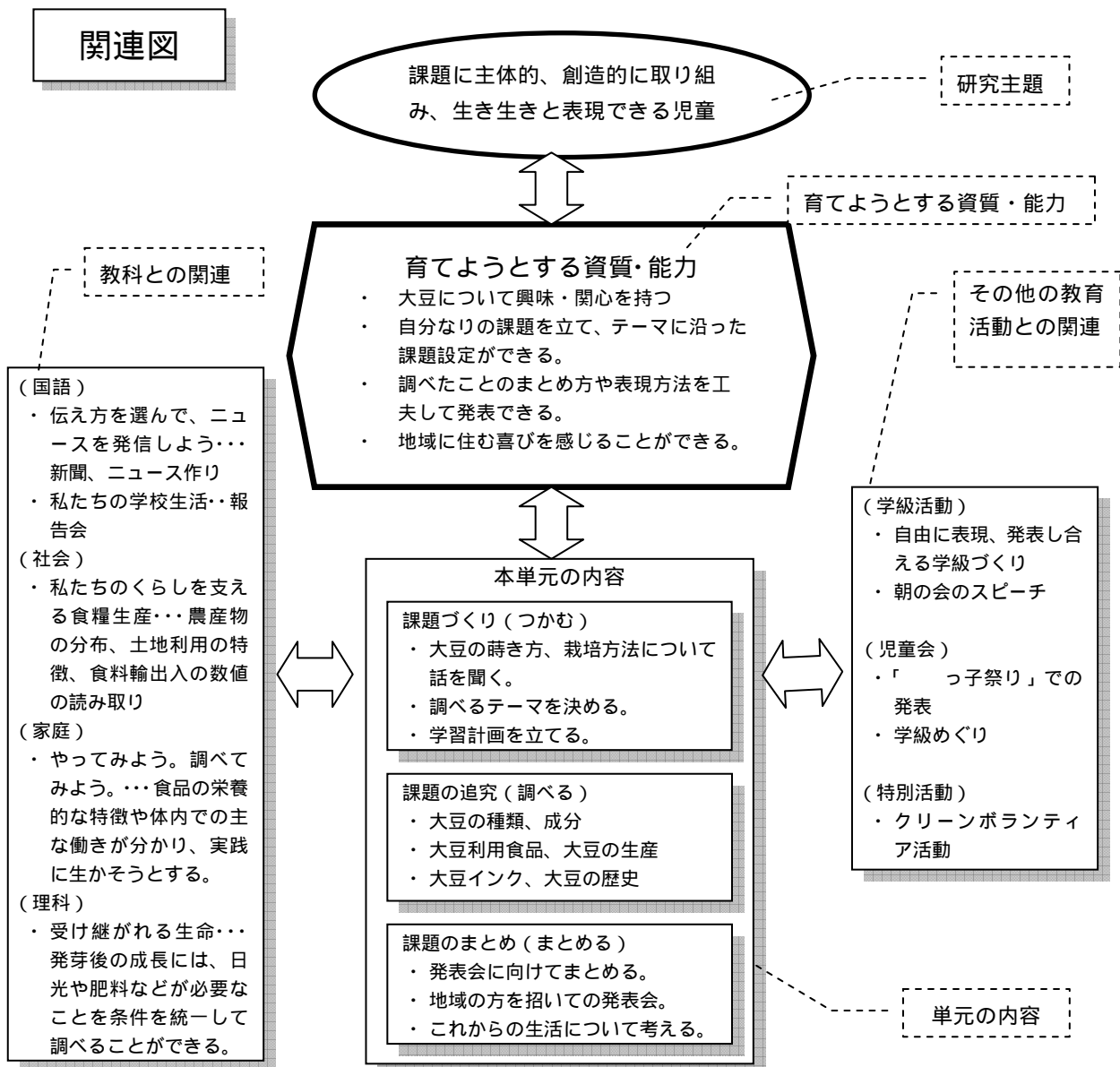
見直したことを指導計画に反映させ、共通理解を形成する。

【事例1】 単元ごとに教科等との関連を明確にする

- 関連図の作成により共通理解を図った取組 -

この事例では、単元ごとの指導計画の冒頭に、統一様式の「関連図」を示すことにより、視覚的に関連を意識できるよう工夫しています。

「育てようとする資質・能力」のうち、研究主題と密接な部分を強調するために太字で表現し、「教科との関連」と「その他の教育活動との関連」を左右に振り分けるなど、バランスを考えた配置となっています。このように、工夫された統一様式で関連図を作成することは、全校的な共通理解を進めることに加え、関連の見直しを図るうえでも有効な手法といえます。



【事例 2】 育てようとする資質・能力の分析から教科等との関連を明確にする
- 問題解決能力と関連の深い教科に絞り、共通理解を図った取組 -

この事例では、育てようとする資質・能力のうち、「問題解決能力」に焦点を当て、そのとらえ方を表 1 のようにまとめています。「必要な力」の欄には、問題解決に必要な力を児童の姿に重ね、より具体的な「 の力」として表しています。また、その力を育てるための具体的支援を「手立て、教科での力点等」の欄に示しています。作成にあたった先生方は、「問題解決能力」の育成は、総合的な学習の時間だけではなく、日々の教科指導が重要であることを再認識したそうです。また、特に国語科との関連を明確にすることが大切であると考え、国語科の各学年の学習内容を整理し、表 2 のようにまとめています。こうした作業は、総合的な学習の時間で育てようとする資質・能力と教科における学習内容との関連を具体的に共通理解するうえで、大変役に立ったそうです。

表 1：問題解決能力についてのとらえ方

活動	必要な力	具体的な児童の姿（項目）	手立て、教科での力点等
集める	情報を集める力 ア	<ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな情報の集め方を知っている。 ・ どのような方法で情報を集められるかを考え、決めることができる。 ・ コンピュータなどを使って情報を集めることができる。 ・ 参考となる図書を集めることができる。 ・ 新聞記事から情報を集めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ (情報活用力) ・ 3、4年国語「本のさがし方」、学活「図書室の使い方」、県立図書館の利用 ・ 3年国語「みんな子どもだった」 ・ 4年国語「インタビュー名人になろう」 ・ ロールプレイ的練習 ・ 4年国語「生活を見つめて」 ・ 支援シート
	尋ねる力 イ	<ul style="list-style-type: none"> ・ インタビューすることができる。 ・ アンケートを取ることができる。 ・ 電話、手紙、FAX を利用できる。 	
	聞き取る力 ウ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大切なことを落とさず聞ける。 ・ 聞き逃したことや不明な点を質問できる。 ・ 大切なことをメモしながら聞ける。 	
調べる	読み取る力 エ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章を読み取ることができる（辞書の利用）。 ・ 地図を読み取れる（方角等）。 ・ グラフやデータを読み取れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語 ・ 社会 ・ 社会、算数、理科
	考察する力 オ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調べたことが課題に即しているか判断できる。 	
	機器活用の力 構想する力 カ キ	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジカメ等の機器を有効に使うことができる。 ・ いろいろなまとめ方を知っている。 ・ 自分の目的に合ったまとめ方を決め、計画を立てることができる。 	
まとめる	書く力 ク	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誤字、脱字がなく、正しい表記ができる。 ・ 読みやすく表記できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 算数（3年：棒グラフ、4年：折れ線グラフ、5年：帯(円)グラフ）
	表す力 ケ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分かりやすい文章に直したり、まとめたりできる。 ・ 地図や図、グラフなどで視覚的に表現できる。 	

表 2：総合的な学習の時間に関連する国語科の単元・教材

内容	学年	単元名・教材名	関連する力	内容	学年	単元名・教材名	関連する力	
手紙を書く	3年	しょうたいじょうをつくろう(招待状の書き方)	イク	話し合い	5年	私たちはこう考える(計画的に話し合う)	オキ	
	4年	お元気ですか(手紙の書き方のきまり)			5年	「子ども環境会議」を開こう(会議の進め方)		
	5年	依頼の手紙、お礼の手紙			6年	学級討論会をしよう(討論の進め方)		
	6年	問合せの手紙			6年	二つの意見から(考えを深めてまとめる)		
伝えたいことをまとめて書く	3年	知っている場所を教えます(整理して書く、段落)	クケ		6年	「推測する」ということ		クケ
	3年	パンフレットを作ろう(調べるときのメモのしかた)			発表会・報告会	3年		
	4年	新聞記者になろう(事実を正確に伝えよう)		3年		せつ明書をつくろう(横書きの書き方)		
	4年	グラフをもとに(グラフを読み取る)		4年		十さいを祝おう(心の残る発表会をする)		
	5年	言葉の研究レポート(レポートの書き方)		4年		生活を見つめて(報告の文章の書き方)		
	5年	読む人のことを考えて(難しい文章を書き替える)		6年	わたしの六年間(聞き手の心をつかむスピーチ)			
	6年	ガイドブックをつくろう(効果的な書き方)		6年	自分の考えを発信しよう(説得力のある意見)			
	6年	目的に応じて書こう(簡潔に書く、詳しく書く)		伝える	3年	標識と言葉(「つたえる」ということを考える)	クケ	
6年	「書く」ということ	5年	わたしたちの学校生活(体験したことを伝える)					
話す・聞く	3年	道あんないをしよう(確かめながら話す・聞く)	イウ	辞典の使い方	5年	ニュースを伝える(逆三角形の構成)	ア	
	4年	電話で約束(電話で正しく伝え合う)			3年	国語辞典たんけん(言葉の並び方・言葉の形)		
	5年	インタビュー名人になろう(インタビューでの要点)			5年	国語辞典を使って(意味の選択・複合語の引き方)		
	6年	「聞く」ということ			4年	漢字辞典の使い方(漢字の画数の教え方・熟語)		
	6年	敬語の使い方			6年	漢字辞典を使って(熟語の読み方や意味を調べる)		
話し合い	3年	名前をつけよう(話し合いで大切なこと)	オキ	本検索	6年	本のさがし方(本の分類のしかた)	ア	
	4年	無人島でくらすとしたら(意見をまとめる話し合い)			6年	本のさがし方(図書室の仕組み)		

コラム：教科で育もうと取り組んできた問題解決能力

例えば、理科では、問題解決能力を育成するための「問題解決学習」という指導スタイルが総合的な学習の時間の登場以前から研究されてきました。それは、問題の把握、仮説の設定、考案した実験方法の検討、といった多くの場面における判断を児童に行わせ、これらの過程を通して実験・観察の技能・表現、科学的な思考、関心・意欲・態度を一括して総合的に高めようというものです。この問題解決の過程は、総合的な学習の時間における追究の過程とほぼ同じといってよいでしょう。

ただ、この手法は、児童に委ねられる部分が多いため、時間がかかるという難点があります。もし、各教科で毎時間「問題解決学習」のスタイルで授業を進めたとすると、膨大な時間が必要となってしまいうでしょう。

教科の授業では、限られた時間で教科のねらいを達成することが求められます。教師はそれを実現するために、吟味した教材を提示し、その授業の目標に即した発問・指示により児童に教科で目標とした力を育む努力をしています。ですから、総合的な学習の時間が導入された現在において、通常の授業で行ってきた問題解決能力育成の一部は総合的な学習の時間で行うといった整理が必要なのではないでしょうか。